

瀧井 敬子(演奏芸術センター)

「音楽散歩 神田篇」と題したコンサートからエピソードを幾つか披露したい。

兄幸田露伴が語る幼き日の延の思い出話に、「お河童あたま」の延が母親から口三味線で「羽根のかむろ」等を習っていたとある。当時幸田家は家計不如意で、裁縫仕事から手の離せぬ母から、延は呉服尺を三味線の棹に擬し、箆を撥と見立てて毎日稽古を見てもらっていた。そこで、私は小学一年生の女の子に出演を依頼した。彼女はたまたま「お河童あたま」で、和服で舞台に登場し歌った。その愛らしい姿に、少女の延もかくや、と観衆の皆さんと共に私も思った。藤原睦子先生には、口三味線がいかなるものか、手振り身振りを交えて具体的に説明していただいたが、レクチャー・コンサートではヴィジュアル効果も絶大であることを改めて認識した。

洋楽黎明期に幸田延と並ぶスターだった橘糸重のコーナーでは、教え子の笠間文子さんに出会っていただいた。九十歳を越えていらしたが、矍鑠と楽しそうに恩師のことを話されたのが印象的だった。

(2002年11月 教官アーカイヴ展に寄せて)